

令和2年度 大明小学校の教育についてのアンケートの集計結果（保護者対象）

後期

調査対象人数 PTA保護者212名 提出者201名

A=そう思う B=ほぼそう思う C=あまりそう思わない D=そう思わない(ない)

No.	評価項目	実施時期	単位	A	B	C	D	無回答
1	学校は、子どものよさや個性を理解し、努力を認めて対応している。	前期	人	101	94	10	0	1
			%	49.2	45.8	5.0	0.0	
		後期	人	86	108	6	0	
			%	42.8	53.7	3.0	0.0	
2	学校は、子どもについての悩みや心配事に適切に対応してくれる。	前期	人	87	105	11	0	2
			%	42.9	51.7	5.4	0.0	
		後期	人	82	109	9	1	
			%	40.8	54.2	4.5	0.5	
3	学校からの文書や連絡等は適切である。	前期	人	115	86	4	0	
			%	56.0	42.0	2.0	0.0	
		後期	人	107	88	6	0	
			%	53.2	43.8	3.0	0.0	
4	学校は、教育活動に適した施設・設備が整っている。	前期	人	98	97	9	0	1
			%	48.0	47.6	4.4	0.0	
		後期	人	88	106	7	0	
			%	43.8	52.7	3.5	0.0	
5	学校は、地震・災害・不審者対策をよく示している。	前期	人	127	76	2	0	
			%	62.0	37.0	1.0	0.0	
		後期	人	118	78	4	0	
			%	58.7	38.8	2.0	0.0	
6	学校は、保護者、地域と連携・協働して教育活動を行っている。	前期	人	117	83	5	0	
			%	57.0	40.5	2.4	0.0	
		後期	人	94	99	7	0	
			%	46.7	49.3	3.5	0.0	
7	子どもは、学校に行くことを楽しみにしている。	前期	人	122	76	7	0	
			%	59.5	37.1	3.4	0.0	
		後期	人	115	69	15	1	
			%	57.2	34.3	7.5	0.5	
8	子どもは、学校生活の中で、（あいさつができる子ども）（進んで学習ができる子ども）（落ち着いた生活ができる子ども）など、豊かな心、生き方について学んでいる。	前期	人	91	101	13	0	
			%	44.4	49.3	6.3	0.0	
		後期	人	78	108	14	1	
			%	38.8	53.7	7.0	0.5	
9	子どもは、授業を十分に理解している。	前期	人	61	125	19	0	
			%	29.7	61.0	9.3	0.0	
		後期	人	52	134	14	1	
			%	25.9	66.6	7.0	0.5	
10	子どもは、「早ね・早起き・朝ごはん」の基本的生活習慣が身についている。	前期	人	100	88	14	3	
			%	48.8	42.9	6.8	1.5	
		後期	人	76	102	22	1	
			%	37.8	50.7	11.0	0.5	
11	子どもに携帯電話を持たせていますか。	前期	人	45			154	7
			%					
		後期	人	46			141	13
			%	22.9			70.1	
12	子どもと携帯電話のルール作りをしていますか。 (携帯電話を持たせている場合のみ回答だが、46人より多くなっている)	前期	人	42			3	1
			%	93.3			6.7	
		後期	人	41			13	
			%	-			-	

13	子どもたちは、家庭や地域の中で、あいさつをしている。	前期	人	66	110	24	5	
			%	32.2	53.7	11.7	2.4	
		後期	人	60	113	25	3	
			%	29.9	56.2	12.4	1.5	
14	家庭と学校は、連絡や意思の疎通が図られている。	前期	人	87	106	11	0	
			%	42.6	52.0	5.4	0.0	
		後期	人	85	109	4	2	1
			%	42.3	54.2	2.0	1.0	

自由記述欄から（設問1～設問14にかかわって）

※表現は要約しています。

1	<ul style="list-style-type: none"> ・担任にいつも気にかけてもらいありがたい。子どものことをよく見てくれていると安心している。 ・子どもの良いところより悪いところに目が行き、押さえつけているように感じる。悪いことをした際、なぜしたのか、何か考えがあったのかを言えるような感じがしない。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・困った時に、親に話すだけでなく先生に話ができるような関係を築いてもらえたらと思う。 ・悩みなど相談しようとしても聞いてくれないしわかってもらえないとよく言っている。それが原因で学校に行きたくないこともある。ありがとうやごめんねなど、気持ちの言葉を実践してほしい。反面教師として家で教えられるからいいが、よい手本となってほしいのが本音。 ・他の子がいじめの相談をした時は何回も連絡して状況を確認したのに、うちの子の時は子どもに解決させた。教育委員会に連絡して改善を求めた。 ・友達関係のことを先生に相談したところ、すぐに対応してくれてありがたかった。 ・子どもの思いや考えを受けとめて対応してくださりありがたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡メールやプリントの表現が難しく理解できないことがある。 ・コロナで学校での子どもたちの様子を見る機会が少なく寂しい思いだったが、子どもに学校のホームページを勧められて様子を知ることができたので、早く知っていればよかったと思った。 ・ホームページで他学年の様子もわかり、子どもも毎日楽しみに観ていた。家族の会話の1つになっている。 ・修学旅行では何回も説明会を開いて丁寧に説明等してもらえたので、安心して送り出せた。 ・学校に必要なもので細かなことは、子どもにではなく親にも指示がほしい。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館に、ボールなどが飛び出さないような扉があってもよい。電気が切れているところがあり暗いと子どもがよく言っている。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが元気に登校する姿を見ると、学校生活が充実しているのだと思う。学校生活について家庭で関心を持つことは大事なことだと思うし、同様に地域の中で子どもたちが育っていけるような学校生活を考えていけるとよい。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・有意義に過ごせていると思う。授業に関しても、わかりやすく先生方の努力を感じる。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応で大変な中、きめ細かく学習や生活の指導をしてくれてありがたい。友だち同士のトラブルがよくあるようですが、先生が必ず話を聞いて解決できるように導いてくれいると聞いている。おかげで経験を通して毎日きまりや思いやりなどについて学べていると感じる。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝の習慣がルーズになりがちなので家庭でも生活の乱れに気をつけたい。 ・親の課題のように感じてしまう。子どもが絶対にできるに○をつけたいと思うように、大切さを学ばせてほしい。

13	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から家庭ですごく指導をがんばっている。すれ違い時にあいさつができるみんなであってほしい。コミュニケーションが不足している現代、変えるにはあいさつからなのかと思うし、子どもの心、気持ちの豊かさや表情にもつながっていくと思う。地域の大人がまずは子どもたちに声をかけるようにした方がよい。変わっていかたいなと思う。 ・おはようと声をかけてもうつむき加減で声のない子が多いように思う。 ・おはようと声をかけるが、ほとんどの子が知らん顔をする。今の時代、子どもに声をかけるということが不審者のような扱いになるのかと心配になる。 ・こちらからすると帰ってくる感じで、しないで様子を見ているとしない。家庭の中ではあいさつは基本なのでやる。 ・恥ずかしいのか、登校班のお兄ちゃんたちに自分からあいさつができない。学校でも声かけをしてもらえたと改善するかと思う。 ・子どもたちの元気な挨拶が聞こえてこないのは残念に思うが、時代でしかたがないことなのかもしれない。毎朝会う人、近所の人、保護者、先生に元気よくあいさつできる人になってほしい。 ・登下校時に合う児童にあいさつしているがほぼ毎回あいさつをしてくれない。元気にあいさつをしてくれるとお互いに気持ちがよいと思う。 ・わが子も含め、あいさつができない子が多いのを感じる。 ・あいさつやきまりについて、もう少し指導してほしいと感じた。 ・人を見て対応しているように感じる。 ・家庭ではしているが地域では少ないと思う。
他	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナで学校行事に参加することが少ない中、子どもたちや保護者に対し、いろいろと考慮して迅速かつ適切に連絡や学業に対応してくれて感謝している。 ・例年とは違う環境の中での御指導、ありがとうございます。 ・いつも子どもの心に寄り添った関わりを行っていただきありがとうございます。 ・学校に行く機会がなく、どのように過ごしているのか、担任の先生との関わり方なども見ることができないので答えられない項目があった。 ・早くコロナが落ち着き、授業の様子などが見学できるようになるとよい。 ・〇つけを丁寧にしてくれありがたい。親も自分の子の学習状況をしっかりと見ていかねばと考えた。 ・前学年の先生が声をかけてくれることもあり、学校全体で子どもを見てくれていると感じた。このような積み重ねが信頼関係につながるのだと思った。 ・新4年生は、2学級への対応をぜひお願いしたい。 ・今一番心配なのはコロナ感染と運動不足なので、フリータイムに先生が子どもたちとドッジボールや鬼ごっこをして体を動かせることに感謝している。 ・年間予定表を紙でいただきたい。 ・体育館西側から南側に通る道のカーブにミラーがほしい。 ・先生達の頑張っている姿はとてもありがたい気持ちでいっぱい。この学校ではない先生方の暴力や言動が耳に入ってきており、本当に悲しい気持ちになる。忙しいと思うが、先生方もストレスをためることなく頑張してほしい。

全体の考察

全体的に、前期と同様の結果にある。今年度は保護者来校の機会が少なく、保護者と教職員のコミュニケーションが少ないこと、授業や行事を参観できずに学校の様子がわからないことが結果に表れているととらえる。

保護者と学校との協力・共通理解で成り立つ学校教育なので、2学期には、運動会や個別懇談等、保護者が来校して様子がわかる機会をできる限り充実したり、ホームページで全校児童のがんばりを伝えるようにしたりしてきた。運動会やホームページにご好評いただいたのは、保護者の学校への関心の高さを映している。引き続き、コロナ禍でも児童の学校でのがんばりを伝える努力をしていきたい。

あいさつは、相変わらずの状況が続く。各家庭で取り組んだり、学校で取り組んだりそれぞれ行うだけでは、児童は地域であいさつができない。互いに連携した取り組みが必要と考える。

学校教育・学校経営・学校運営について（設問1～8）

【施設整備について】

- ・今年度、屋上の防水シート貼替、体育館の雨漏りの抜本的改修、プール内壁・底の塗り直し、エアコンの追加設置など、高額な改修が実現したが、まだまだ修理が必要なところが多々ある。また、教室がたりなくなってきている問題もある。教育予算が年々減額になる中で、限られた予算を適切に使わなくてはならない。
- ・体育館フロアの出入口に格子扉があると防犯上も含めてもちろんよいが、限られた予算の中で他に修繕や対応が必要なところが多々あるため、残念ながら予算計上できる状況にない。
- ・体育館照明を度々確認するが、正常に点灯している。（先日、1つつかなくなったことを確認済）フロア照明は水銀灯であり、点灯に時間差がある。特に一度消すとしばらく点灯しないので、児童はつかないと思うのかもしれない。ただし、つかなくなった時、業者にその都度来てもらうとお金がかかるため、場所によってはしばらく待って（卒業式等の行事に合わせて）から交換している。

【災害・安全対策】

- ・感染症対策では、文部科学省からの「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～」に基づき、対策を緩めることなく続けてきた。感染の波がある中で、意識を常に高く維持することはとても大変だったが、ご家庭でのご理解・ご協力がとても心強く、ぶれることなく対策がとれている。学校として具体的にどのように取り組むかを発信し、ご家庭と連携して取り組んでいるのがよいと感じている。今後も感染症対策は続くが、状況に応じて適切に対応していきたい。
- ・避難訓練は、1学期にできなかったが2学期に3回実施した。予告なしの地震避難訓練（掃除中）は、昨年度は児童がとても困っていたが、今年度は、落ち着いてできるようになった。経験の積み重ねは大事だと感じた。3学期には、南アルプス警察署と連携して不審者対応の訓練も実施予定である。安全のために、コロナ禍でもできる形で実施する。

【児童の学習理解】

- ・わかる授業を日々行っていくことがもちろん大事だが、児童は、授業ではわかったつもりでも忘れてしまいがちである。一律に宿題を増やすことには問題があるので、自主学習を強化していく。3学期には強化週間を設定して全学年で自主学習に取り組む予定である。

子どもの様子、家庭と学校の連携の様子について（設問9～14）

【あいさつについて】

- ・あいさつについて、なかなか改善されない状況が伝わってくる一方で、我々教員もそうだが、現状を心配する保護者の方が、児童からあいさつが返ってこなくても粘り強くあいさつを続けてくれている様子が伝わってくる。
- ・通学路には、多くの方が自主的に見守りをしてくださっていてとてもありがたい。大明小保護者のすばらしいところだと感じる。見守りをしてくださる方々には、あいさつができるようになってほしい。学校でも意識して取り組んでいるつもりだが、改めてあいさつを強化したい。
- ・あいさつは、保護者、地域と学校がそれぞれ取り組んでも、「家ではするが学校ではしない」とか、「学校ではするが地域ではしない」といった限定的な状況がなかなか改善しない。保護者、地域と学校が連携した活動を行うことを提案する。

【早寝・早起き・朝ごはん】

- ・基本的な生活習慣が、前期に比べ低下してきている。学校でも生活指導により支援をするので、家庭での生活習慣向上に向けて引き続き取り組みいただきたい。

その他

【学級編制】

- ・山梨県には、「はぐくみプラン」という35人学級編成のしくみがある。しかし、このしくみは学年2学級以上が対象で、本校3年生のように学年1学級では対象にならない。来年度から5年計画で国の施策として35人学級が実現するが、下の学年（2年生）から始められる可能性が高く、来年度に新4学年が対象学年に含まれる可能性は低い。県の3年生以上30人学級の施策もまだ具体的には決まっていない。

【通学路の安全施設】

- ・体育館西から南にかけての道路の曲がり角に、地区の自治会長さんと連携してカーブミラー設置の要望書（7月29日付）を市に提出したが、道路に面する家が少なくして設置基準外となり、残念ながら設置とならない。